

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

米利回りと豪ドルに過剰感

<ポイント>

- ◆昨日は、米経済指標発表後に米利回りの大幅上昇と共にドルが対円や対欧州通貨で上昇したのが特徴的だった。米経済指標はまちまちで、NY 連銀製造業景況指数や鉱工業生産は市場予想を下回ったが、コア小売売上高の予想比上振れが好感されたとみられる。
- ◆ドル/円は、日銀の追加緩和見送りを受けて欧州時間にかけて一時 119.40 円へ下落した後、米経済指標発表後に 120 円台半ばへ急反発した。
- ◆本日は、DeBelle・RBA 総裁補発言(金融市場担当、8:30)、英 7 月週平均賃金(17:30)、米コア CPI(21:30)、NZ2QGDP(明日 7:45)などが予定されている。18 日未明の米 FOMC を控えて方向感の出てくいく状況が続くが、中では英週平均賃金が注目、賃金上昇の加速継続が確認されれば、英利上げ期待が高まり、対ドルよりも対ユーロでポンドが上昇しやすそうだ。
- ◆ドル/円は、FOMC を控えて 120 円丁度を挟んだ方向感のない展開が続くそうだが、昨日の米利回り上昇を受けたドル高はやや行き過ぎにみえ、反落リスクに注意したい。

昨日までの世界:日本の先送り確定、米国は先送りリスク後退?

ドル/円は、正午過ぎに日銀金融決定会合の結果が発表され追加緩和が見送られたことが判明、更に黒田総裁定例記者会見でもマイナス成長が一時的で、物価の上昇基調も続いているとの認識が示され、日銀が目先追加緩和を行う姿勢が感じられなかったことから、発表直前まで燻っていた追加緩和期待の失望で朝方には 120.65 円まで上昇していたものの発表後に急反落、欧州時間にかけて一時 119.40 円へ下落した。もっとも、米経済指標発表後には米利回りの急上昇と共に 120 円台半ばへ急反発した。

米経済指標はまちまちで、NY 連銀製造業景況指数は-14.67、鉱工業生産も前月比-0.4%と共に市場予想を下回ったが、コア小売売上高(除く自動車、ガソリン、建築資材。GDP 算出に用いられる)が前月比+0.4%、過去計数も上方修正されたことが好感されたとみられる。米利上げ期待を反映しやすい米 2 年債利回りは 8bps 上昇して 0.80%台乗せとなり、2011 年 4 月以来の水準となっている。

ユーロ/ドルは、米経済指標発表直後までは 1.13ドル台前半で方向感なく推移していたが、米利回りの大幅上昇に遅れて反応したためか、東京時間深夜頃から下落し始め、一時 1.1259 ドルの安値をつけた。ドイツ ZEW 期待指数は 12.1 と前月および市場予想を大幅に下回ったが、殆ど反応がみられなかった。

ユーロ/円は、ドル/円につれた動きとなり、日銀追加緩和見送りを受けて 136 円台から一時 135 円丁度へ下落したが、NY 時間引けにかけては 135 円台後半を回復している。

豪ドル/米ドルは、アジア時間朝方までは回復基調が続き、一時 0.7166 ドルと 8 月末以来の水準を回復したが、その後は中国株安の影響を受けて反落、NY 時間にかけては米ドル高も加わり 0.71 ドル割れへ反落した。もっとも、引けにかけては原油などコモディティ価格の反発に支えられ、0.71 ドル台半ばを回復している。

豪ドル/円も、朝方に 86.33 円の高値をつけた後、欧州時間にかけて 85 円丁度割れへ反落したが、引けにかけては一時 86 円台を再び回復した。

きょうの高慢な偏見：米利回りと豪ドルに過剰感

[今週の見通しはこちら\(9月11日付FX戦略ウィークリー\)](#)

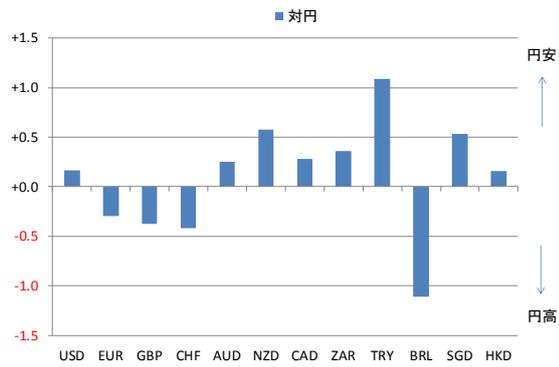
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、日銀追加緩和見送りを受けた円高が続かず、一部米経済指標の上振れで 9 月利上げの可能性が再び意識される中、本日は日米材料が少ない中、FOMC を控えて 120 円丁度を挟んだ方向感のないもみ合いの展開が続くそうだが。但し、昨日の米利回り上昇を受けたドル高はやや行き過ぎにみえ、反落リスクに注意したい。

ユーロ/ドルは、ECB 追加緩和期待が燦る中で、昨日の米経済指標のいい部分への反応で 1.13 ドル台の上値の重さが改めて意識され、買い戻し基調が一服しており、FOMC を控えて方向感が出にくくなりそうだが。

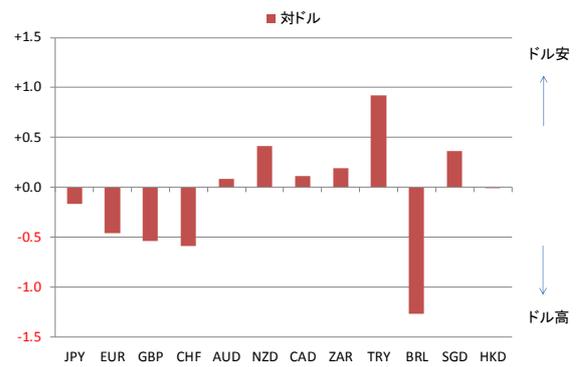
豪ドル/米ドルも FOMC を控えた豪ドル売り米ドル買いポジションやコモディティ売りポジションの巻き戻し圧力、そして Turnbull 新首相の下での経済活性化への期待からか、豪ドルは堅調推移が続いている。もっとも、中国株価の不安定や原油などコモディティ価格の長い目で見た下落基調が続く中で持続的な上昇は期待しにくく、足許の反発は豪ドル売りポジション造成の好機となっている。

主要通貨の対円相場(前日比%)



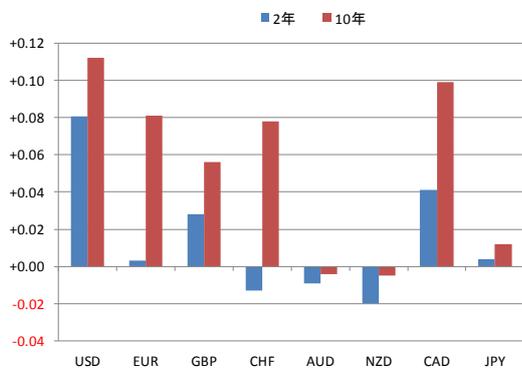
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



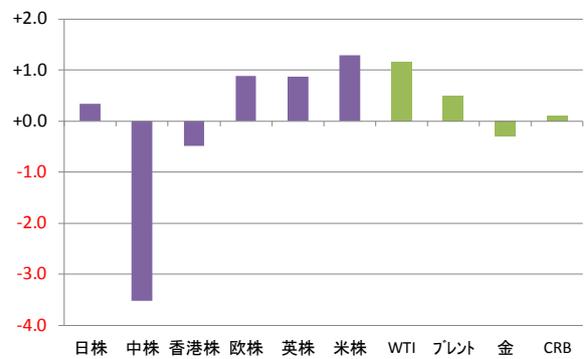
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、「[リスク・手数料などの重要事項に関する説明](#)」をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会